

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

日本の海事工学に関する博物館について(その5):
近畿、中国、四国地方

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 庄司, 邦昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/599

日本の海事工学に関する博物館について（その5）

－近畿、中国、四国地方－

庄 司 邦 昭

On the Museums on Marine Engineering in Japan (Part 5)

－Kinki, Chugoku, Shikoku－

Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collectiong data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those are already reported. In Japan he has already reported on the museums in Hokkaido, Tohoku, Kanto and Chubu area. In this paper author collected the museums which concerned marine engineering in Kinki, Chugoku, Shikoku district in Japan. He visited 8 museums and collected 57 museums in this paper.

1. 緒言

世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた^{(1)～(7)}。さらにヨーロッパの船の博物館については完全とはいえないが集大成することができた⁽⁸⁾。またその後、1997年から日本における船舶関係資料について調査を始めた^{(9)～(12)}。本報告はその第5報として近畿地方、中国地方、四国地方における、海事資料について調査したので以下に報告する。

2. 現地調査結果

2.1 近畿地方

(1) 交通科学博物館（大阪市、大阪府）

かつての国鉄がつくっただけのことはあって、大阪環状線弁天町の改札口を出るとすぐに交通科学博物館の入口があり、とても便利にできている。この博物館は1962年1月に大阪環状線開通記念事業として開館した。京都に同じ経営による「梅小路蒸気機関車館」をもち、東京の「交通博物館」とは姉妹博物館になっているそうである。

屋内の展示室は第9室まであり、そのうちの第1室の交通の歴史と第6室の船舶のなかに、24隻の模型船が展示されている。鉄道関係の展示が圧倒的に多く、実物車両が屋外展示場に並べられている。第9室の模型列車が運転されるパノラマ室は子供だけでなく大人にも人気がある。

第6室には17隻の船舶の模型とエンジンなどが展示されている。初期の構造船として示された鎌倉時代の和船や江戸時代に近くの漁村から江戸へはやく魚を運ぶために使われた押送船など数隻の和船の模型が目についた。国鉄が連絡船として使っていた青函航路の『八甲田丸』と宇高航路のホーバークラフト『かもめ』の模型も見られる。『筑紫丸』の模型は、計画だけで終わってしまった幻の姿を戦前の模型によって見る事ができる。

見学したのが土曜日だったこともあり、博物館内は家族連れが多く、明るい雰囲気だった。写真撮影も自由で、博物館自体に威張ったところのないのが一番の長所であろう。ミュージアムショップは充実しているが鉄道に関するものが中心であった。



写真1 交通科学博物館

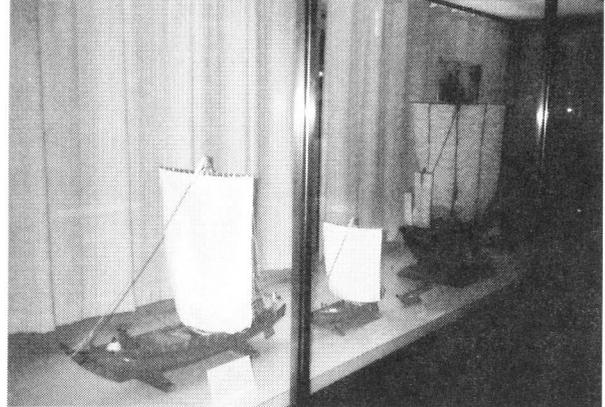


写真2 左から、五太力、五下、押送船、千石船の模型

〈データ〉

名 称：交通科学博物館

英 名：Modern Transportation Museum

所 在 地：〒552 大阪市港区波除3丁目11番10号

電 話：06-6581-5771

交 通：国鉄大阪環状線弁天町駅、地下鉄中央線弁天町駅下車、駅前

所 属：西日本旅客鉄道株式会社

開 館：1962年（昭和37年）1月

入館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）

年末年始（12月29日～1月3日）

春・夏休み中は無休

入 館 料：大人（高校生以上）260円

小人（4歳以上）150円

写真撮影：可

出 版 物：○交通科学博物館（パンフレット、有料）

展 示：〈第1室 交通の歴史〉

○『サンタマリア』1/50模型

○『ビクトリー』模型

○『クラーモント』1/50模型

○『サスケハナ』1/30模型（港区 平田肇氏出品）

○菱垣廻船模型

○上荷船（うわにぶね）模型

○淀川外輪船模型〔1871年（明治4年）〕

〈第6室 船舶〉

○鎌倉時代の和船模型

木造船。初期の構造船。大きさは約20m。「北野天神縁起絵巻」をもとにつくられた模型。（岩阪敬治

氏製作)

○千石船1/30模型

江戸時代の大型帆船。岩阪敬治氏製作（岩阪創造文化工芸者協力）

○押送船（おしおくりふね）1/30模型

7本の櫓と3本の帆柱をもつ。（岩阪敬治氏製作協力）

○五下（ごした又はごげ）1/30模型

五太力より小型の船。

○五太力（ごだいきりき）1/20模型

千石船より小さく、八百石程度。竹ざおを使って船を進めるため、舷側に縦通する台をもつ。（岩阪敬治氏製作協力）

○『日本丸』（1世）1/50模型

総トン数2284トン。（平田肇氏製作）

○『こはく丸』1/50模型

1963年7月1日竣工。総トン数2697.58トン。

○『八甲田丸』1/80模型

1964年8月に就航した青函連絡船。総トン数8313.75トン。

○『かもめ』1/15模型

MV-P P 5 ホーバークラフト。1972年（昭和47年）4月に宇高航路に就航。全長16.00m。

○『おりおん』模型

1973年（昭和48年）2月28日竣工。総トン数7323トン。

○『Violanda（ビオランダ）』1/100模型

オイルタンカー。載貨重量47000トン。

○『Hawaiian（ハワイアン）』1/50模型

14896載貨重量トンの貨物船を1954年に20200載貨重量トンの油鉱石兼用輸送船に改造。

○『ぼなべ丸』1/100模型

コンテナ自動車運搬船。全長146m。

○『Golden Eagle』模型

タービンオイルタンカー。総トン数32256トン。

○『宗島丸（むねしまる）』1/100模型

船首楼付平甲板船。1958年8月16日進水。総トン数9241.94トン。

○『剛邦丸』1/100模型

1958年（昭和33年）9月進水。当時の日本最大のオイルタンカー。載貨重量47248トン。

○『筑紫丸（つくしまる）』模型1941年（昭和16年）9月24日進水。

大連航路に就航の予定であったが潜水母艦に改造された。戦後は復員船、1952年からはパキスタンで回教巡礼船となった。

○焼玉エンジン1966年製造。450rpm。淡路島沿岸で漁船に使用されていた。

参考文献：○千地万造編：『大阪府の博物館』、中央公論美術出版、pp.54～57（1983年9月25日発行）

○加藤有次監修：『ユニーク博物館』、毎日新聞社、p.179（1985年6月10日発行）

○創元社編集部編：『関西ミュージアムガイド』、創元社、p.28（1990年6月10日第1版第1刷発行）
（1992年10月24日（土）現在）

(2) 淀川資料館（枚方市、大阪府）

大阪環状線の京橋で京阪電車に乗り換えると、約30分で枚方市駅に着く。駅前からクラボウの工場に沿ってしばらく歩くと、建設省近畿地方建設局淀川工事事務所の建物がある。その敷地の一角に淀川資料館がつくられている。

オランダ人による淀川改修に関する調査や報告、そして意見書などの資料、明治から昭和に至る淀川改修工事に関する記録など貴重な文献とともに、毛馬洗堰の基礎に使用されたドイツのラルゼン型鋼矢板や長柄起伏堰模型など土木技術に関する展示も多い。鋼矢板が使用されたのは淀川での工事が最初であった。

このような展示のなかに淀川とその沿岸の繁栄を示すものとして「くらわんか舟」と「三十石船」の模型をみることができる。安藤広重の浮世絵に淀川を描いたものがあり、そこでは淀川資料館の展示そのままに、三十石船に接舷（along side）するくらわんか舟の様子が描かれている。

網野善彦と森浩一の対談集『馬・船・常民』（河合出版）によると、この付近には楠葉牧などいくつかの馬の飼育地があったようである。中世では陸上交通に馬の存在は欠かせないが、淀川沿いの低湿地に牧がつくられてこの一帯は陸上交通と水上交通を結ぶ重要な土地であった。かつては船と馬とが密接な結び付きをもち、淀川の水運も繁栄していたことであろう。記録によれば三十石船は1800年頃に伏見の観月橋から大阪の八軒家まで下るのに半日または半夜をかけて運賃は72文、上りは1日または1夜をかけて運賃は144文で運航されていた。

淀川資料館は自由な雰囲気の中で見学することができ、見学者にとっては大変に好ましい環境である。しかし資料の多さに対して展示スペースが小さく、展示物が少し窮屈に感じられる。ユニークな名前が付けられたくらわんか舟という川船をはじめ、淀川流域特有の船の資料を今後も収集していくよう期待している。



写真3 淀川資料館



写真4 三十石船（奥）とくらわんか船（手前）

〈データ〉

名 称：淀川資料館

英 名：——

所 在 地：573 大阪府枚方市新町2-2-13

電 話：0720-46-7131

交 通：京阪電車、枚方市駅下車、徒歩約7分

所 属：建設省近畿地方建設局淀川工事事務所

開 館：1977年（昭和52年）4月1日

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：日曜日、祝日、年末年始

入 館 料：無料

写真撮影：可

出版物：○淀川資料館（無料パンフレット）

○国営公演淀川河川公園利用マップ

展示：○三十石船模型（牧方市、藤村友和氏出品）

長さ5丈6尺（17m）、幅8尺3寸（2.5m）、船頭4人、船客定員28人。

○くらわんか船模型（牧方市、藤村國先生出品）

○曳船模型

大正から昭和初期にかけて使用された。

参考文献：○為国かおる：土木博物館めぐり26、土木学会誌第78巻、p.50（1993年8月）

○千地万造編：大阪府の博物館、中央公論美術出版、pp.108-109（1983年9月発行）

○創元社編集部編：『関西ミュージアムガイド』、創元社、p.62（1990年6月10日第1版第1刷発行）
（1992年10月22日（木）現在）

(3) 神戸商船大学海事資料館（神戸市、兵庫県）

東京商船大学と神戸商船大学は第2次世界大戦前の東京高等商船学校と神戸高等商船学校の頃から兄弟校として様々な面で競争しかつ協力しあってきた。学生は航海訓練所の練習船と一緒に乗って訓練を受けるので友達も多い。サッカーやカッターなどいくつかのスポーツの定期戦も行われているが、これらが早慶戦と肩を並べるように発展することを願っている。

神戸商船大学海事資料館の歴史は神戸商船大学の前身にあたる神戸高等商船学校にまで遡ることができる。しかし1945年5月の第2次大戦の戦災により所蔵資料の大部分を焼失してしまった。その後、被災を免れた模型や各方面からの寄贈資料を集めて1958年に海事参考館が発足した。1967年（昭和42年）には50周年記念事業として新しい展示室が完成した機会に海事資料館と名称を変更し、今日に至っている。

展示品は千石船など江戸の和船の模型から昭和の商船の模型まで、さらにそりこ舟など伝統的な小型の舟の実物と範囲が広い。水雷駆逐艦「曙」についてその模型をここで見ることができるが、実物のシリンダーは東京商船大学構内に置かれている。

第2次大戦前には東京と神戸の両商船大学に大成丸と進徳丸という大型の帆船があった。大成丸は終戦後に機雷に触れて沈んでしまったが、進徳丸は残り練習船として使用された後に神戸商船大学のグランド脇におかれていた。ところが1995年1月17日の阪神大震災のときに被害を受け、復旧が不可能となり解体されてしまった。ここにも震災による貴重な文化財の損失がみられて残念である。



写真5 神戸商船大学海事資料館

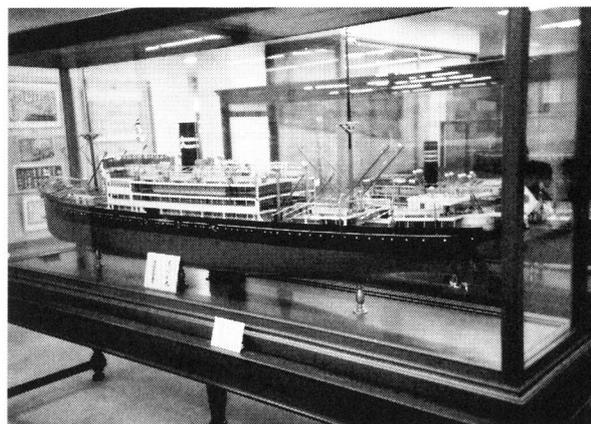


写真6 うらる丸模型

〈データ〉

- 名 称：神戸商船大学海事資料館
 英 名：Maritime Museum of Kobe University of Marcantile Marine
 所 在 地：658 神戸市東灘区深江南町5-1-1
 電 話：078-431-6236
 交 通：阪神電鉄深江駅下車徒歩10分
 所 属：神戸商船大学
 沿 革：1958年（昭和33年）5月開館
 開館時間：9：00～16：00
 休 館 日：土曜日、日曜日、祝日、12月28日～1月4日
 入 館 料：無料
 写真撮影：可
 出 版 物：○神戸商船大学海事資料館案内
 ○神戸商船大学海事資料館年報
 展 示：○千石船「八幡丸」模型（1/10、江戸時代）
 ○千石船模型（高砂市曾根天満神社、いさば造り）
 ○和船模型（江戸時代後期）
 ○和船「住吉丸」模型（兵庫県阿閑（あえ）神社）
 ○北前船模型
 ○鯨模型（団平船）
 ○水雷駆逐艦「曙」模型
 1899年にイギリスのヤロー造船所で建造、長さ67.6m、排水量345トン
 ○鯨船「明神丸」模型（尼崎市野田房吉氏製作）
 ○延縄漁船「梅王丸」模型（尼崎市野田房吉氏製作）
 ○「伏見丸」模型（日本郵船、1914年（大正3年）12月2日竣工）
 ○パーク型帆船「共進丸」模型（1/23、1917年（大正6年））
 ○機帆船「二神丸」模型（昭和初期）
 ○「春光丸」模型（T.T.Shunko Maru、1/150）
 ○「宮崎丸」模型
 ○「うる丸」模型（大阪商船、1929年（昭和4年）3月30日建造）
 ○天昭丸模型（1930年（昭和5年）大阪天野造船所天野三吉氏製作）
 ○タンカー「月興丸」模型
 ○冷蔵貨物船「こすたりか丸」模型（1968年（昭和43年）6月竣工）
 ○サバニ模型
 ○くり船（全長6.85m）
 ○そりこ舟（漁船、赤貝類を主に採る、島根県八束郡東出雲町大字下意東）
 （1996年（平成8年）11月27日（水）現在）

(4) 西宮市立郷土資料館（西宮市、兵庫県）

関西に行ったときにどこかの博物館で「阪神間ミュージアムマップ」という阪神間ミュージアムネットワーク推進実行委員会のつくったパンフレットを持ってきた。ホテルで眺めていたら、廻船の中が見えるようになった船体

中心の縦断面で切断された模型が映った写真が眼に止まった。そこが西宮市立郷土資料館である。

阪神電車の香櫨園（こうろえん）駅で下りて、夙川（しゅくがわ）沿いの木々に包まれた気持ちの良い遊歩道を歩くと間もなく左側に建物が見えてきた。ここは図書館と併設しているが図書館にくらべ資料館の入館者は少なかった。しかし精密につくられた樽廻船の模型や和磁石を見ることができた。樽廻船の模型は確か神戸市立博物館にもあったと思うがそちらは写真撮影禁止だし、ここの方がゆっくりと自由に見ることができた。

阪神間ミュージアムネットワーク推進実行委員会というグループはここに示された博物館や美術館が情報交換している組織なのだろうか。「阪神間ミュージアムマップ」を見ると芦屋や西宮付近にはたくさんの美術館や博物館があるようでびっくりした。このパンフレットを見ていると次はどこへ行こうかと思わず考えてしまう。



写真7 西宮市郷土博物館

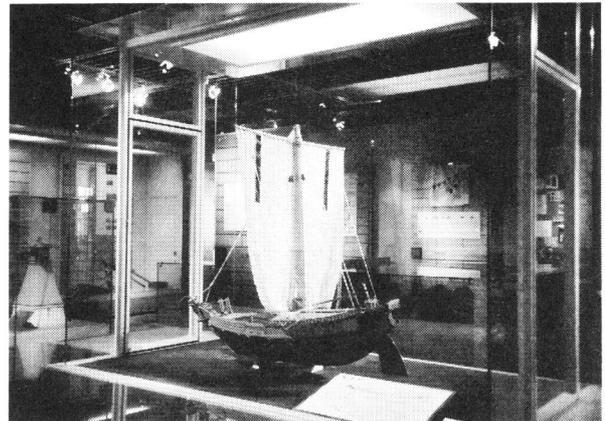


写真8 樽廻船（復元）模型

<データ>

名 称：西宮市立郷土資料館
 英 名：Nishinomiya City Museum
 所 在 地：6620944 兵庫県西宮市川添町15-26
 交 通：阪神電車「香櫨園」駅下車、南へ徒歩6分
 電 話：0798-33-1298
 ファクシミリ：0798-33-1799
 Eメール：NMC00065@nishi.or.jp.
 ホームページ：<http://www.nishi.or.jp/~kyodo/>
 所 属：西宮市
 沿 革：－
 開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）
 休 館 日：月曜日、年末年始
 入 館 料：無料
 写真撮影：可
 印 刷 物：○西宮市郷土資料館 行事予定表
 展 示：○樽廻船（復元）模型（1/20）

（原図：東京大学工学部船舶工学科所蔵、監修：石井謙治、製作：(株)船型科学研究所）

この樽廻船は寛政5年（1793年）に作図された千石積み樽廻船図面をもとに、造船技術史の観点から厳密な時代考証を行い復元した模型。この船には1600樽余りの酒樽を積むことができたが、酒荷の積載効率をよくするため、通常の弁才船より船体が深めにつくられている。実船の主要寸法は、全長31

m、航長さ14m、幅7.3m、深さ3m、帆24反で船型や構造、艀装などに18世紀末の樽廻船の特徴がよく表れている。

○和磁石（江戸－明治時代）16世紀の終わり頃から航海に用いられた。正針と逆針がある。

正針の和磁石：方位の文字配置が時計まわりの和磁石で本針ともいう。

逆針（さかばり）の和磁石：方位の文字配置が反時計回りの和磁石でウラハリともいい、船などに固定して用いられた。

○船鑑札

○今津灯台（1/10模型）

大関酒造株式会社寄贈、1810年（文化7年）今津港頭に建設、1984年（昭和59年）復元

（1999年10月22日（金曜日）現在）

（5）水分れ資料館（氷上町、兵庫県）

日本の本州で地上に降った雨水は太平洋に流れるか日本海に流れる。その境目が中央分水界で、兵庫県の石生付近には標高95mの日本一低い中央分水界、すなわち水分れがある。分水界が低いということは、日本海側から太平洋側への物資の輸送路をこの付近につくれば高低差が少なくて便利である。そこでこの付近の河川を利用して輸送路ができ河川では高瀬舟を使って物資が運搬された。尼崎から国鉄の福知山線に乗り1時間50分で石生（いそう）に着く。駅から国道175号線を南へ歩くと水分れ橋がある。高谷川に架かる小さな橋である。橋の脇の道を川に沿って上流に向かって歩いて行くと、水分れ公園があり、そのなかの千代田池とよばれる人工池のほとりに水分れ資料館が建っている。

近くの茶店が管理を委託されているらしく、私が入ったときには受付に誰もいなかったが入館料を箱に入れて見物していたら、あとで入場券などを持ってきてくれた。ここには部屋の中央に加古川が使われた高瀬舟の原寸模型がおかれている。また展示から加古川を知ることができた。2階の資料室にも実際に使われていた人足船が置かれている。これは高瀬舟よりも幅が広く、長さは短い。



写真9 水分れ資料館



写真10 高瀬舟の原寸模型

〈データ〉

名 称：水分れ資料館

英 名：Miwakare Material Hall

所 在 地：66934 氷上郡氷上町石生

電 話：0795-82-5911

交 通：国鉄福知山線石生駅下車、徒歩10分

所 属：氷上町

沿 革：1988年（昭和63年）4月1日開館

開館時間：9時～17時

休 館 日：火曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月3日

入 館 料：大人200円、小人50円

展 示：○高瀬舟の原寸模型（長さ600cm、幅126cm）

近くの本郷の船座から物質を加古川中流の滝野または河口の高砂まで運んだ。杉材で建造されている。水深の浅い川に適した形状になっている。特に領主の米などは高砂の大名蔵まで直接運んだともいわれている。この舟には約15石（約2トン）積めた。滝野から下流を運航していた船はさらに大きな高瀬舟だった。

○瀬戸内海と日本海を結ぶ連絡道資料

○加古川の舟運資料

○人足船

（1999年（平成11年）10月23日（土曜日）現在）

2.2 中国四国

(6) 広島市郷土資料館（広島市、広島県）

広島市郷土資料館はもとの被服廠跡に造られている。建物の一部は原子爆弾の傷跡が残る元の建物をそのまま使っている。この資料館には太田川の舟運を中心にいくつかの和船が展示されている。この付近の独特の呼び名なのか「グリブネ」、「マガイチャンコ」など面白い名前の船もある。また入口近くにおかれた元寇のときに沈没した元の軍船の碇石は説明文をみると、めぐりめぐってこの資料館に落ち着いたことがわかる。



写真11 広島市郷土資料館

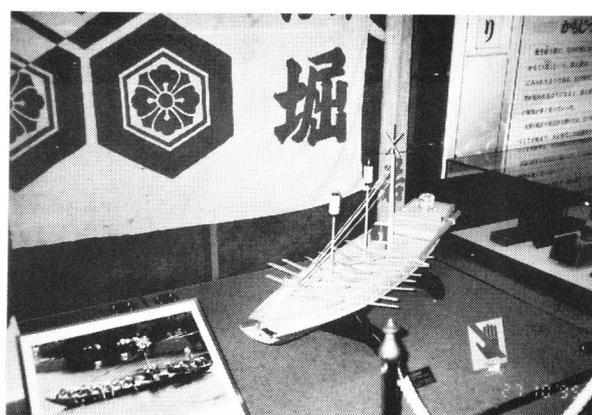


写真12 漕ぎ伝馬（こぎでんま）模型

〈データ〉

英 名：Hiroshima Museum of Traditional Provincial Industry

所 在 地：734 広島県広島市南区宇品御幸2-6-20

交 通：広島電鉄宇品行 宇品二丁目下車 徒歩5分

電 話：082-253-6771

F A X：082-253-6772

開 館 日：1985年（昭和60年）5月11日

開館時間：9：00～17：00（入館は16：30まで）

休館日：毎週月曜日、国民の祝日の翌日、8月6日、年末年始（12月28日～1月4日）

入館料：大人100円、小人50円

駐車場：乗用車10台

出版物：○広島市郷土資料館（無料パンフレット、日本語、英語）

○学習の手引第19号 太田川の舟運

○元軍船碇石（日本語、英語）

○川船づくり展（広島市郷土資料館企画展、平成3年4月3日～6月16日）

展示：○オオブネ（復元、広島青年会議所寄贈）

昭和初期まで、太田川を盛んに上り下りして荷物を運んだ川舟で、オクブネとも呼ばれた。この舟は全長約11m、幅約1.6mあり、杉材で1982年（昭和57年）に建造された。

○漕ぎ伝馬（こぎてんま）模型（縮尺1/10）

江波の漕ぎ伝馬は代々明神丸と命名される。

○グリブネ模型（縮尺1/14）

ジャリブネ（砂利舟）とも呼ばれ、太田川の河床の小石や川砂を採って運ぶ舟だった。グリとは小石のことである。

○マガイチャンコ模型（縮尺1/10）

魚とり舟の一種で、投網漁（とあみりょう）に使うために、舟の前の部分がやや広がっているのが特徴である。

○ワタシブネ模型（縮尺1/10）

対岸に人などを渡すための舟である。橋が建設されるにつれて使用されなくなった。

○イカリ（小田一美氏寄贈）

○イカリ（川本福三氏寄贈）

○ヒキヅナ（ホソビキ、宮滝トノヨ氏寄贈）

○元軍船碇石

1931年（昭和6年）から1940年（昭和15年）の間の博多湾浚渫工事中に発見された6点のうちの1つで、発見後に宇品の旧陸軍運輸部に移された。その後、1955年頃（昭和30年頃）、横浜へ移され横浜海洋科学博物館に展示され、さらに1989年（平成元年）から釧路のフェリーターミナルに展示されていた。

この「碇石」は1274年（文永11年）、1281年（弘安4年）の二度にわたる元寇の時、元の軍船に使用されていたと考えられる。元寇の時には多くの元の船が北九州沿岸に来襲したが、暴風雨のためにその大部分が沈没したといわれている。このため北九州沿岸からはこの碇石と同様の石が発見されている。

（1995年（平成7年）10月27日（金曜日）現在）

(7) 木江町ふれあい郷土資料館（木江町、広島県）

大崎上島は昔から造船の島として繁栄してきた。従って現在でも島の各地に造船所がある。木江町ふれあい郷土資料館は大崎島船の資料館という別名をもつように、島の造船史を残す資料館になっている。船の形をした建物の一階には海運交流室と体験工作室、二階に造船交流室と生活交流室、三階に交流室サロンと操舵体験室があるが、そのなかの造船交流室に木造船の造船工具が展示されている。海運交流室にも幾つかの木で造った模型船や内航貨物船の精密模型が展示されている。

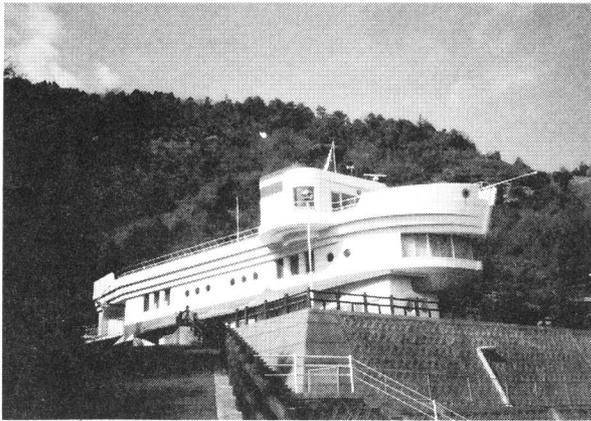


写真13 木江町ふれあい郷土資料館



写真14 沖浦の船釘

〈データ〉

名 称：木江町ふれあい郷土資料館

英 名：Kinoecho Fureai Folk Material Hall

住 所：72504 豊田郡木江町大字沖浦1911

電 話：08466-2-0005

F A X：

交 通：竹原フェリー乗場より木江港へ客船で20分、三原から高速船で50分、尾道から水中翼船で45分、松山から水中翼船で55分、今治から高速船で30分、大三島の宮浦から水中翼船で10分、高速船で15分

所 属：木江町

沿 革：1991年（平成3年）6月1日開館

開館時間：10時～16時

休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月3日

入 館 料：大人100円、小人50円

展 示：○權伝馬模型

○オチョロ船模型

○填隙工具

○木つち

○沖浦の船釘

○「昭靖丸」模型（油送船、総トン数1599トン、全長85m、垂線間長79.5m、1987年11月竣工、佐々木造船株式会社建造）

○「泰成丸」模型（1/50、貨物船、総トン数1595.88トン、全長86.3m、垂線間長80.00m、1981年9月竣工、松浦造船所建造）

（2000年（平成12年）2月13日（日曜日）現在）

(8) 豊北町歴史民俗資料館（豊北町、山口県）

豊北町歴史民俗資料館は滝野小学校の校舎として使われていた建物を利用している。この建物は宮大工の伝統をもつ阿川村の棟梁の橋本銀之助によって建てられ、1924年（大正13年）3月に完成した。ドイツ人の設計といわれ、ルネッサンス様式の石造建築を木造建築で表現している。大正時代の代表的な木造建築物として1979年（昭和54年）3月31日に山口県有形文化財に指定された。

この資料館は、稲作りなど新しい文化をもった渡米人によって芽生えた弥生文化から現在に至るまでの貴重な歴史的文化遺産を残すために1980年（昭和55年）11月に開館した。一階の第一展示場には昔の農家の母屋（台所）と納屋（このば）を復元している。二階の第二展示場の一部に、北浦の伝馬船と漁具そして北浦の廻船関係資料がある。伝馬船はわずかに2隻ではあるが実物が室内で保存されている。粟野浦の伝馬船は使用海域が油谷湾という内海のために、外海で使用された角島の伝馬船に比べ船側外板の幅は狭く、華奢に造られている。展示場所が不足しているために漁具の多くが伝馬船の上に置かれているのは少し残念であった。

豊北町では廻船のことを「いさば」、「とうかい」、「帆前船」、「きどかい」などと呼んでいた。北浦の粟野、阿川、島戸、肥中、特牛、荒田、和久、矢玉、二見の各港には、藩政期から明治、大正そして昭和の初めまで、2本マストや3本マストの廻船が入り出していた。豊北町の産物を積んで博多、萩、浜田や遠く大阪方面へも行き、帰りには必要な商品を積んできた。このように豊北町の経済や文化の発展に大きな役割を果たした北浦の廻船関係資料も伝馬船の近くに展示されている。今後も豊北町の船の資料を大切に保存し、その他の北浦の伝馬船を収集するなど新しい、船の資料の充実を期待している。

資料館を訪れた日はちょうど第2土曜日だったので、休日を利用して小学生数名が見学に来ていた。この子供達にとってここに復元された農家での生活はまるで別世界であるかのように見入っていたのが印象的だった。



写真15 豊北町歴史民俗資料館



写真16 粟野浦の伝馬船

〈データ〉

名 称：豊北町歴史民俗資料館

所 在 地：759-55 山口県豊浦郡豊北町滝部3153番地の1

電 話：0873-82-1661

交 通：山陰本線滝部（たきべ）駅から徒歩10分

所 属：豊北町（ほうほくちょう）

開 館 日：1980年11月1日

入館時間：9：00～16：00

休 館 日：月曜日（祝日または振替日の時は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入 館 料：大人100円、大学高校生80円、小人60円

入館方法：スリッパにて

写真撮影：可

出 版 物：パンフレット（無料）

展 示：○粟野浦の伝馬船

粟野浦（あわのうら）の伝馬船は底見漁（そこみりょう）が主で、寒中や早春には川をさかのぼって青海苔とりにも使われた。建造：堺造船所（大津郡油谷町掛淵）、使用期間：1968年～1978年、使用

者：伊藤昭氏（栗野浦）

○角島の伝馬船

角島（つのしま）の伝馬船は三尋半の長さがあるといわれ、北浦では最大級の船である。さざえ、あわび、わかめ、ひじきなどを取る底見漁に使用されたが、時には一本釣りや建網漁にも使われた。建

造：市村造船所（特牛港）、使用者：坂本小佐三氏（角島）

○角島の伝馬船のとも臈

○角島の伝馬船の脇臈（わきろ）

とも臈の力を補助するため舷側に取り付けた臈

○山錨

○權

○停泊灯

○航海灯

○ガス灯

○沖ランプ

○羅針盤（廻船に使用されたもの、SAURA WORKS製 No.47240）

○北浦の廻船関係資料

○鮎の養魚生簀（船型生簀）

2～3月頃に栗野川を登ってくる鮎の稚魚を川口で掬って、4～5mmになるまで船型生簀の中で育て上流に放した。

○角島灯台のタイムコントローラ

重錘式振子時計を使用して灯台の機能を制御していた。（角島元山の井上宇一氏提供）

参考文献：○全国美術館会議編：『全国美術館ガイド』、美術出版社、p.387（1992年1月）

（1993年2月13日（土）現在）

3. 文献調査結果

文献^{(13)~(19)}から、船舶関係資料をもつと思われる博物館について調査した。その結果を県別にまとめ以下に示す。この中で◎印は現地調査した施設である。また、さらに●印のついたものは現地調査結果として2章に記載した施設である。

〈三重県〉

○海の博物館 (◎)

英 名 : Toba Sea - Folk Museum

住 所 : 517 鳥羽市浦村町大吉1731-68

電 話 : 0599-32-6006

F A X : 0599-32-5581

交 通 : 国鉄近鉄鳥羽駅より三交バス、パールロード経由志摩スペイン村行海の博物館前下車徒歩5分

所 属 : 財団法人東海水産科学協会

沿 革 : 1971年(昭和46年)12月開館

開館時間 : 8時30分~17時30分(7月20日~8月25日)

8時30分~17時(3月21日~7月19日、8月26日~11月10日)

9時~16時30分(11月11日~3月20日)

休 館 日 : 6月26日~30日、12月26日~1月1日

入 館 料 : 大人800円、小中高生400円

展 示 : ○海苔ベカ(東京湾)

○板付船(奄美大島の代表的な船。「ぶしつけ」と呼ばれている。5枚の板を張り合わせただけの原始的構造)

○チョロ船(鳥羽地方の代表的な和船。一本釣りや磯漁によく用いられている平底船)

○えぐり舟(明治10年、秋田県男鹿半島戸賀の一木船。海藻採取に用いられた)

○貝突き舟(神奈川や千葉で磯漁に使用されている一人乗りの船)

○サバニ(沖縄漁師の船。サンゴ礁で身軽に動けるように独特な反りをもつ)

○ソリコ船(島根県中海地域で赤貝採取に昭和30年頃まで盛んに使われていた。2本のモミの木の原木を繰り合わせて造られている。昭和10年頃には100隻あまりあったが今は全く存在しない。全長6.06m、幅1.18m、船首高さ1.1m、船尾高さ0.6m。1972年(昭和47年)12月21日製作)

○佐渡のたらい舟(わかめなどを取るのに主に女性が使う船で、入り組んだ岩礁等の海でも自由に方向が変わられる便利な船)

○ミト船(ボラ網漁の指揮船。漁の総大将である「太船頭」が乗る。網に魚群がのると早く網口(みいぐち)を閉める。1983年(昭和58年)4月8日進水)

○カッコブネ(船底が削舟でその両側に杉板を打ちつけた舟で丸木舟から板舟に移る中間的仕組みの舟。下北半島泊村で磯漁に使われている)

○トッペ(ボラ楯切網船)(鳥羽の各港では冬になると湾を横切ってボラの群れを捕る漁法があった。この船はその時に大網で湾をふさぐ役目をするもので1970年(昭和45年)まで鳥羽市本浦で使用されていた。)

○鯨船(熊野灘で明治中期まで行われていた鯨取りに使用されていた船で八丁櫓をかけると時速12kmもでたという。船の彩色により組が異なる)

- トモボト（京都府伊根。トモボトは伊根の代表的な船でトモが太いためにトモボトと呼ばれる。大正期には200隻もあったというが今は50隻余りが残っているだけである。2人乗りで速力は早くかつては鯨漁に盛んに使用された。刳舟の名残りをとどめている）
- よつり（伊勢湾の北部へ注ぐ木曾川河口に見られる船の代表的な船で浅い漁場でも使えるように平底になっている。網を張るときに網がからまないようにスクリュプロペラは船体前方に付けられている。全長9.4m、幅1.5m、高さ0.8m、三重県桑名郡木曾岬村）
- ザイモクブネ（長崎県対馬の北端の佐護湊で肥料藻や磯物を採るのに使用された船で現在は数隻しか残っていない）
- 海女船
- マルキブネ（明治中期）
- 鯉鮪竿釣漁船「第五住吉丸」1/50模型（全長60.11m、幅9.00m、垂線間長さ52.00m、深さ4.10m、総トン数299.93GT、速力14.097ノット、1972年（昭和47年）10月5日竣工、三保造船所）
- 江戸時代～明治時代のカツオ船1/10模型
- 設計用具（ふなず、しない、しないのおもし（大正時代のもの、鯨の形）、墨さし、カンナ、ケーヒキ、ノミ、キリ）
（1987年8月5日現在）

○志摩民俗資料館

英 名：Sima Folk Material Museum
住 所：5170501 志摩郡阿児町鶴方4058-1
電 話：05994-3-1711
交 通：近畿鶴方駅下車すぐ
所 属：－
沿 革：1980年（昭和55年）7月17日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：無休
入 館 料：大人500円、中高生300円、小人200円
展 示：和船（3隻）

○神宮農業館（◎）

英 名：－
住 所：5160000 伊勢市倉田山
電 話：0596-22-1700
交 通：近鉄宇治山田駅、国鉄伊勢市駅より外宮内宮循環バス51で「徴古館前」または「倉田山」下車徒歩2分
所 属：－
沿 革：1891年（明治24年）創立
開館時間：9時～16時30分（3月～10月、入館は16時まで）、9時～16時（11月～2月、入館は15時30分まで）
休 館 日：月曜日（休日のときは開館）、年末3日間
入 館 料：大人300円、高校大学生150円、小中学生100円
展 示：○千石船模型

(1987年 8月現在)

〈奈良県〉

〈和歌山県〉

○御坊市歴史民俗資料館

英 名 : Gobo City Historical Museum

住 所 : 644 御坊市塩屋町南塩屋1123

電 話 : 0738 - 23 - 2011

交 通 : 国鉄紀勢本線御坊駅下車

所 属 : 御坊市

沿 革 : 1988年(昭和63年) 7月25日開館

開館時間 : 9時~16時

休 館 日 : 月、水、金曜日、12月28日~1月5日

入 館 料 : 無料

展 示 : 漁船と漁具

○太地町立くじらの博物館

英 名 : Taiji Whale Museum

住 所 : 64951 東牟婁郡太地町大字太地字常渡2934 - 2

電 話 : 07355 - 9 - 2400

交 通 : 国鉄紀勢本線太地駅よりバスくじら館前下車

駐 車 場 : 有

所 属 : 太地町

沿 革 : 1969年(昭和44年) 4月2日開館

開館時間 : 8時30分~17時

休 館 日 : 無休

入 館 料 : 大人1030円、中学高校生820円、小学生610円

展 示 : 捕鯨船

〈滋賀県〉

○長浜市立長浜城歴史博物館

英 名 : Nagahama Municipal Nagahama Castle Historical Museum

住 所 : 526 長浜市公園町10 - 10

電 話 : 0749 - 63 - 4611

交 通 : 北陸本線長浜駅下車徒歩3分

所 属 : 長浜市

沿 革 : 1983年(昭和58年) 4月5日開館

開館時間 : 9時~17時(入館は16時30分まで)

休 館 日 : 月曜日(祝日のときは開館)、祝日の翌日、12月29日~1月3日

入 館 料 : 大人300円、小中学生100円

展 示：琵琶湖舟運

○滋賀県立琵琶湖博物館

英 名：－

住 所：5250001 草津市下物町1091

電 話：0775-68-4811

F A X：0775-68-4850

交 通：東海道本線草津駅より近江鉄道バス琵琶湖博物館前下車

所 属：滋賀県

沿 革：1996年10月20日開館

開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月4日、その他館長の定める日

入 館 料：大人500円、高校大学生400円、小中学生250円

展 示：丸子船

〈京都府〉

○日本歴史資料館

英 名：

住 所：京都市右京区鳴滝音戸山町

電 話：075-461-0095

交 通：京福電鉄北野線高雄口下車、福王子交差点から西へ約500m

所 属：個人

沿 革：

開館時間：9時～17時30分

休 館 日：無休

入 館 料：大人600円、中学高校生450円、小学生350円

展 示：戦艦「武蔵」、「大和」の製図青写真

○京都嵐山美術館

英 名：

住 所：京都市右京区嵯峨天竜寺造路町

電 話：075-882-1010

交 通：市バス、京都バス嵐山前下車

所 属：個人

沿 革：

開館時間：9時～17時30分

休 館 日：無休

入 館 料：大人700円、中学高校生500円、小学生350円

展 示：戦艦「陸奥」の舵、人間魚雷、上陸用舟艇

○京都府立丹後郷土資料館

住 所：62922 宮津市字国分
電 話：07722-7-0230
交 通：宮津線天橋立駅から丹海バス伊根方面行、資料館前下車徒歩5分
所 属：京都府
沿 革：1970年11月開館
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日、12月28日～1月4日
入 館 料：大人150円、小人40円
展 示：和船資料

○三十石船月見館

英 名：
住 所：
電 話：075-611-0284
交 通：京阪電車観月橋駅下車、徒歩5分
所 属：個人
沿 革：
開館時間：9時～17時30分
休 館 日：
入 館 料：無料
展 示：三十石船

○舞鶴市立郷土資料館

交 通：西舞鶴駅下車、市民会館内
所 属：舞鶴市
沿 革：1994年12月開館
展 示：弁財船模型

〈大阪府〉

○大阪市立博物館

英 名：Osaka City Museum
住 所：540 大阪市中央区大阪城1-1
電 話：06-941-7177
交 通：国鉄大阪環状線森ノ宮駅下車徒歩15分
地下鉄谷町線谷町四丁目駅下車徒歩15分
所 属：大阪市
沿 革：1962年（昭和37年）11月開館
開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月4日
入 館 料：大人300円、学生200円、小人無料

展 示：治水工事と水運

○交通科学博物館（◎、●）

英 名：Modern Transportation Museum

住 所：552 大阪市港区波除3-11-10

電 話：06-581-57711

交 通：国鉄大阪環状線弁天町駅、地下鉄中央線弁天町駅下車すぐ

所 属：西日本旅客鉄道株式会社

沿 革：1962年（昭和37年）1月21日開館

開館時間：9時30分～17時（入館は6時30分まで）

休 館 日：月曜日（祝日、振替休日、鉄道記念日、学校の春休み夏休み期間は開館）、12月29日～1月3日

入 館 料：大人260円、4歳から中学生まで150円

展 示：海の交通（模型船）

○なにわの海の時空館

英 名：Osaka MariTime Museum

住 所：5590034 大阪市住之江区南港北2-5-20

電 話：06-4703-2900

ホームページ：<http://www.jikukan.or.jp>

交 通：地下鉄中央線OTS線コスモスクエア線、地下鉄四つ橋線ニュートラムテクノポート線トレードセンター前駅下車、徒歩15分

所 属：

沿 革：2000年（平成12年）7月14日開館

開館時間：10：00～18：00

休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、年末年始

入 館 料：高校生以上600円

展 示：「菱垣廻船」（復元船）、大阪港の歴史

○国立民族学博物館

英 名：National Museum of Ethnology

住 所：565 吹田市千里万博公園10-1

電 話：06-876-2151

交 通：国鉄茨木駅、阪急茨木市駅よりエキスポランド行バス、千里中央駅より阪急茨木市駅行バス、日本庭園前下車徒歩13分、大阪モノレールで万博記念公園駅下車徒歩15分

所 属：国立

沿 革：1977年（昭和52年）11月17日開館

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：水曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月4日

入 館 料：大人400円、高校大学生250円、小中学生110円

展 示：海の民族（オセアニア展示；チェチェメニ、カツオ釣り用カヌー）

○淀川資料館 (◎、●)

英 名 : Yodo River Museum
住 所 : 573 牧方市新町2-2-13 建設省淀川工事事務所内
電 話 : 0720-46-7131
交 通 : 京阪電鉄牧方市駅下車、徒歩10分
所 属 : 国立
沿 革 : 1977年(昭和52年)4月1日開館
開館時間 : 9時~16時30分
休 館 日 : 日曜日、祝日、年末年始
入 館 料 : 無料
展 示 : 淀川水運(模型船)

〈兵庫県〉

○相生市立歴史民俗資料館

英 名 : Aioi City Historical Folk Material Hall
住 所 : 678 相生市那波南本町11-1
電 話 : 07912-3-2961
交 通 : 山陽本線相生駅より相生港行、相生荘行バス松の浦下車徒歩5分
所 属 : 相生市
沿 革 : 1985年(昭和60年)1月4日開館
開館時間 : 9時~17時
休 館 日 : 月曜日、祝日(月曜日のときは翌日)、12月28日~1月4日
入 館 料 : -
展 示 : 海と船の歴史

○赤穂市立歴史博物館

英 名 : Ako City Museum of History
住 所 : 67802 赤穂市上飯屋916-1
電 話 : 07914-3-4600
交 通 : 国鉄赤穂線播州赤穂駅下車徒歩15分
所 属 : 赤穂市
沿 革 : 1989年(平成元年)4月26日開館
開館時間 : 9時30分~17時
休 館 日 : 火曜日(祝日のときは翌日)、12月28日~1月4日
入 館 料 : 大人200円、小中学生100円
展 示 : 塩廻船模型

○伊丹市立博物館 (◎)

英 名 : Itami City Museum
住 所 : 644 伊丹市千僧1-1-1
電 話 : 0727-83-0582

交 通：阪急電鉄伊丹線阪急伊丹駅下車徒歩20分
所 属：伊丹市
沿 革：1972年（昭和47年）7月22日開館
開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：祝日、毎月20日、12月29日～1月3日
入 館 料：無料
展 示：樽廻船模型

○加古川流域滝野歴史民俗資料館

英 名：Takino Historical Folk Museum
住 所：67902 加東郡滝野町下滝野1369
電 話：0795-48-3422
交 通：国鉄加古川線滝野駅下車徒歩15分
所 属：滝野町
沿 革：1980年（昭和55年）11月1日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日、土曜日、祝日、年末年始
入 館 料：大人100円、小人50円
展 示：高瀬舟1/2模型、櫓、かい、船造具、舟運要衝図

○神戸海洋博物館（◎）

英 名：Kobe Maritime Museum
住 所：650 神戸市中央区波止場町地先 メリケンパーク内
電 話：078-391-6751
交 通：国鉄東海道本線、阪神電鉄元町駅下車徒歩15分
所 属：社団法人
沿 革：1987年（昭和62年）4月30日神戸国際港湾博物館を閉館し開館
開館時間：10時～17時
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）
入 館 料：大人500円、小中学生250円
展 示：○菱垣廻船1/10模型
○樽廻船1/10模型
○北前船1/10模型
○北前船の錨
○伝馬船模型
○じょーじわしんとんぶりっじ1/200模型（川崎汽船コンテナ船、総トン数44221GT、全長228.00m、全幅32.20m、喫水12.523m、速力24.4ノット、コンテナ積載数3032個、1986年7月建造）
○吉林丸模型
総トン数6783GT、速力18.6ノット、1934年（昭和9年）建造、神戸と大連間に就航した客船、1945年（昭和20年）5月和田岬沖で触雷沈没
○サンタマリア模型

- シングルアウトリガーカマー（南太平洋ポリネシア）
- 丸木船（南太平洋ポリネシア）
- 菱船（南アメリカのチチカカ湖のポリビア側）
- デリーフデ（De Liefde）模型
- ジェームスタフト1/100模型
アメリカ貨物船、全長65.57m、1274載貨重量トン、乗員15名、1901年（明治34年）建造
- ロイヤルアルバート模型（軍艦）
- 美加保丸フィギュアヘッド
- プリンスマーガレット模型
ホバークラフト、305総トン、長さ56.38m、全幅27.88m、高さ14.17m、喫水0.60m、速力60ノット、主機ロールスロイスプロテウス型タービン4基、4250馬力4基、旅客424名、乗用車55台、ブリティッシュホバークラフトコーポレーション建造
- 摩耶丸模型
6584総トン、長さ134.4m、幅17.5m、喫水8.3m、速力16.9ノット、1951年（昭和26年）建造
- グレートイースタン模型
- 甲斐丸模型
11938総トン、長さ160m、幅23m、深さ11.938160M23m13.30m、速力21.00ノット、1966年12月建造
- ロドニー1/8模型（長さ12.4m、幅8.7m、高さ8.7m）
1868年1月1日、神戸開港時の英国艦隊12隻の旗艦
- ゴンドラ
長さ11m、幅1.7m、定員6人
(1987年7月30日現在)

○神戸商船大学海事資料館（◎、●）

英 名：Maritime Museum of Kobe University of Marcantile Marine
住 所：658 神戸市東灘区深江南町5-1-1
電 話：078-431-6236
交 通：阪神電鉄深江駅下車徒歩10分
所 属：神戸商船大学
沿 革：1958年（昭和33年）5月開館
開館時間：9時～16時
休 館 日：土曜日、日曜日、祝日、12月28日～1月4日
入 館 料：無料
展 示：模型船

○神戸市立博物館（◎）

英 名：Kobe City Museum
住 所：6500034 神戸市中央区京町24
電 話：078-391-0035
交 通：国鉄三ノ宮、元町駅、阪急三ノ宮、阪神三ノ宮駅、元町駅下車徒歩10分

所 属：神戸市

沿 革：1982年（昭和57年）11月3日開館

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：月曜日（祝日、振替休日のときは翌日）、年末年始、臨時休館日

入 館 料：大人200円、高校大学生150円、小中学生100円

展 示：樽廻船模型

○西宮市立郷土資料館（◎、●）

英 名：Nishinomiya City Museum

住 所：662 西宮市川添町15番26号

電 話：0798-33-1298

交 通：阪神香櫨園駅下車、徒歩6分

所 属：西宮市

沿 革：1985年（昭和60年）7月開館

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：月曜日、年末年始

入 館 料：無料

展 示：千石積樽廻船1/20模型

○兵庫県立歴史博物館

英 名：Hyogo Prefectural Museum of History

住 所：670 姫路市本町68

電 話：0792-88-9011

交 通：山陽本線姫路駅下車徒歩25分、または神姫バス平野南口行で博物館前下車

所 属：兵庫県

沿 革：1983年4月開館

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月4日

入 館 料：大人200円、高校大学生150円、小中学生100円

展 示：和船資料

○水分け資料館（◎、●）

英 名：Miwakare Material Hall

住 所：66934 氷上郡氷上町石生

電 話：0795-82-5911

交 通：国鉄福知山線石生駅下車、徒歩10分

所 属：氷上町

沿 革：1988年（昭和63年）4月1日開館

開館時間：9時～17時

休 館 日：火曜日（祝日のときは翌日）、12月28日～1月3日

入 館 料：大人200円、小人50円

展 示：加古川を往来していた高瀬舟の原寸模型

〈鳥取県〉

○海とくらしの史料館

英 名：Sea and Life Museum

住 所：684 境港市花町8-1

電 話：0859-44-2000

F A X：0859-44-2009

交 通：国鉄境線境港駅下車徒歩15分

所 属：財団

沿 革：1994年（平成6年）4月19日開館

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：火曜日（祝日のときは翌日）、12月30日～1月5日

入 館 料：大人200円、小中高生50円、心身障害者／70歳以上無料

展 示：漁船、漁具、漁業機器、漁法の模型

〈島根県〉

○島根町歴史民俗資料館

英 名：Shimane-Machi Folk Historical Material Room

住 所：69012 八束郡島根町大字野波2048番地

電 話：0852-85-2301

交 通：国鉄山陰本線松江駅よりバス野波行、沖泊行約120分、野波小学校前下車徒歩1分

所 属：島根町

沿 革：1975年（昭和50年）12月開館

開館時間：9時～17時

休 館 日：日曜日、祝日、土曜日の午後、12月28日～1月3日

入 館 料：大人100円、高校大学生50円、小中学生30円

展 示：漁労用具、サンパ

〈岡山県〉

○牛窓町民俗文化資料館

英 名：Ushimado-Cho Folk Material Hall

住 所：70143 邑久郡牛窓町牛窓6396-1

電 話：086934-3431

交 通：国鉄山陽本線岡山駅より両備バス牛窓行、牛窓警察署前下車

所 属：牛窓町

沿 革：1976年（昭和51年）10月開館

開館時間：10時～16時

休 館 日：月曜日、国民の祝日の翌日、12月29日～1月3日

入 館 料：無料

展 示：造船関係資料

○岡山県立博物館（◎）

英 名 : Okayama Prefectural Museum

住 所 : 703 岡山市後楽園1-5

電 話 : 086-272-1149

F A X : 086-272-1150

交 通 : 国鉄山陽本線岡山駅下車、徒歩20分

所 属 : 岡山県

沿 革 : 1971年（昭和46年）8月開館

開館時間 : 9時～18時（4月～9月）、9時30分～17時（10月～3月）

休 館 日 : 月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月4日

入 館 料 : 大人200円、小中学生70円

写真撮影 : 不可

展 示 : ○丸木舟と櫂（レプリカ）原品 : 千葉県米倉遺跡（縄文時代）

○高瀬船模型（旭川水系の標準の高瀬舟の復元、実物は長さ8間半、約15m 御津郡建部町、山元高一氏製作）

流れの急な瀬を掘ってその瀬を上下するにふさわしい独特の船型をもつ皮舟。岡山県の三大河川（吉井川、旭川、高梁川）では特に江戸時代に物資輸送の手段として使用された。明治、大正から昭和の初めには陸上の交通手段などに押されて姿を消していった。積下し（つみくだし）の荷物は米、麦などの穀物類、鍋、釜などの鉄製品、材木、木地などの木製品であり、積上せ（つみのぼせ）の荷物は塩、油、藍玉、畳表など瀬戸内の産物であった。角倉了以（1554～1614）がおこなった各地の舟運の開発は吉井川の高瀬舟通船の状況を範としている。

○帆柱（総社市西片上）

○櫓（高梁川水系）

○高瀬舟の櫂（和気町 吉岡靖治氏寄贈）

○櫂（旭川水系のもの、御津郡御津町 御津南小学校葛城分校寄贈）

○もやい綱（御津郡津部町、山元高一氏寄贈）

○ほづな（常長政雄氏寄贈）

（1990年8月2日現在）

○市立玉野海洋博物館

英 名 : Tamano Marine Museum

住 所 : 7060028 玉野市渋川2-6-1

電 話 : 0863-18-8111

交 通 : 国鉄宇野線宇野駅よりバス30分、渋川海水浴場前下車

所 属 : 玉野市

沿 革 : 1953年（昭和28年）7月開館

開館時間 : 8時30分～17時

休 館 日 : 水曜日（3月25日～4月10日、4月29日～5月5日、7～8月は無休）、12月29日～31日

入 館 料 : 大人500円、高校生400円、5歳～中学生250円

展 示 : 船舶模型

〈広島県〉

○因島市史料館

英 名 : Innoshima Municipal Material Museum
住 所 : 7222211 因島市中庄町寺迫 金蓮寺境内
電 話 : 08452-4-0943
交 通 : 国鉄山陽本線尾道駅より本四バス因島大橋下車、市内バス土生港行水軍城下車
所 属 : 因島市
沿 革 : 1964年(昭和39年)開館
開館時間 : 8時30分～17時
休 館 日 : 12月29日～30日
入 館 料 : 有料
展 示 : 船道具、廻船業文書

○因島水軍城

英 名 : Innoshima-Suigun Material Hall
住 所 : 72222 因島市中庄町3228-2
電 話 : 08452-4-0936
交 通 : 国鉄山陽本線尾道駅よりバス因島大橋下車、市内バス土生港行水軍城入口下車
所 属 : 因島市
沿 革 : 1983年(昭和58年)12月開館
開館時間 : 8時30分～17時
休 館 日 : 12月29日～31日
入 館 料 : 大人310円、小人150円
展 示 : 水軍船模型

○海上保安資料館

英 名 : Maritime Safety Museum
住 所 : 7370832 呉市若葉町5-1
電 話 : 0823-21-4961
F A X : 0823-21-8105
ホームページ : <http://www.msa.ac.jp>
交 通 : 呉線吉浦駅より徒歩20分、海上保安大学校内
所 属 : 国立
沿 革 : 1980年開館
開館時間 : 9時30分～16時
休 館 日 : 土、日曜日、休日、12月28日～1月4日
入 館 料 : 無料
展 示 : 巡視船などの模型船

○木江町ふれあい郷土資料館 (◎、●)

英 名 : Kinoecho Fureai Folk Material Hall

住 所：72504 豊田郡木江町大字沖浦1911
電 話：08466 - 2 - 0005
交 通：竹原フェリー乗場より木江港へ客船で20分、三原から高速船で50分、尾道から水中翼船で45分、松山から水中翼船で55分、今治から高速船で30分、大三島の宮浦から水中翼船で10分、高速船で15分
所 属：木江町
沿 革：1991年（平成3年）6月1日開館
開館時間：10時～16時
休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月3日
入 館 料：大人100円、小人50円
展 示：木造船時代からの船用品

○倉橋町立長門の造船歴史館

英 名：Kurahashi-cho Nagato Museum of Shipbuilding History
住 所：73713 安芸郡倉橋町171-7
電 話：0823 - 53 - 0016
交 通：呉線呉駅より呉市営バス倉橋室尾行あるいは鹿老渡行桂浜下車徒歩3分
所 属：倉橋町
沿 革：1992年（平成4年）7月20日開館
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日
入 館 料：大人400円、小人200円（倉橋町立歴史民俗資料館と共通）
展 示：再現した遣唐使船、実物の木造船の艫、木造船模型、海運業の資料

○倉橋町立歴史民俗資料館

英 名：Kurahashi-cho Folk Historical Museum
住 所：73713 安芸郡倉橋町431
電 話：0823 - 53 - 0577
交 通：呉線呉駅より呉市営バス倉橋室尾行あるいは鹿老渡行桂浜下車徒歩5分
所 属：倉橋町
沿 革：1983年（昭和58年）11月1日開館
開館時間：9時～16時30分
休 館 日：月曜日、12月25日～1月3日
入 館 料：大人400円、小人200円（長門の造船歴史館と共通）
展 示：漁業関係資料

○呉市入船山記念館

英 名：Irifuneyama Memorial Museum
住 所：737 呉市幸町4-6
電 話：0823 - 21 - 1037
F A X：0823 - 26 - 6270
交 通：呉線呉駅下車徒歩13分

所 属：呉市
沿 革：1967年（昭和42年）4月より一般公開
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月29日～1月3日
入 館 料：大人200円、小人100円
展 示：戦艦などの模型

○広島県立歴史博物館

英 名：Hiroshima Prefectural Museum of History
住 所：720 福山市西町2-4-1
電 話：0849-31-2513
F A X：0849-31-2514
交 通：国鉄山陽本線福山駅下車徒歩5分
所 属：広島県
沿 革：1989年（平成元年）11月3日開館
開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：月曜日（休日のときは開館）、12月28日～1月4日
入 館 料：大人280円、小中高生140円
展 示：瀬戸内の交通・交易

○広島市郷土資料館（◎、●）

英 名：Hiroshima Museum of Traditional Provincial Industry
住 所：7340015 広島市南区宇品御幸2-6-20
電 話：082-253-6771
F A X：082-253-6772
交 通：国鉄山陽本線広島駅より広島バス広島港行御幸二丁目下車徒歩3分、広島電鉄宇品二丁目下車徒歩5分
所 属：広島市
沿 革：1985年（昭和60年）5月11日開館
開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）
休 館 日：月曜日、祝日の翌日、8月6日、12月28日～1月4日
入 館 料：大人100円、小人50円
展 示：模型船

○広島市交通科学館

英 名：Hiroshima City Transportation Museum
住 所：73101 広島市安佐南区長楽寺2-12-2
電 話：082-878-6211
交 通：広島アストラムライン長楽寺下車徒歩3分
所 属：広島市
沿 革：1995年（平成7年）3月18日開館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日、祝日の翌日、8月6日、12月28日～1月4日、6、9、12、3月の第1火、水曜日

入館料：大人410円、小人200円

展示：陸海空の乗り物模型

○福山市鞆の浦歴史民俗資料館

英名：Fukuyamashi Tomonoura History and Folklore Museum

住所：72002 福山市鞆町後地536-1

電話：0849-82-1121

F A X：0849-82-1121

交通：国鉄山陽本線福山駅より鞆鉄バス鞆の浦下車徒歩5分

所属：福山市

沿革：1988年（昭和63年）4月24日開館

開館時間：9時～17時（10月～3月は16時30分まで）

休館日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月3日

入館料：大人150円（高校生以下無料）

展示：鯛網漁資料、瀬戸内の歴史民俗資料

<山口県>

○大島町歴史民俗資料館

英名：Oshima-cho Folk Historical Museum

住所：74221 大島郡大島町小松

電話：08207-4-2200

交通：国鉄山陽本線大島駅よりバス東瀬戸下車徒歩3分

所属：大島町

開館時間：9時～16時30分（土曜日は11時45分まで）

休館日：月～金（土、日のみ開館）、12月29日～1月3日

入館料：有料

展示：大島商船学校資料

○川上村立阿武川歴史民俗資料館

英名：Abugawa Historical Folk Material Hall

住所：7580100 阿武川郡川上村小市ヶ谷2319

電話：0838-54-2024

交通：国鉄山陰本線東萩駅より防長バス惣良台行で約40分、資料館前下車

所属：川上村

沿革：1975年（昭和50年）3月開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日

入館料：大人100円、小人50円

展示：阿武川の川漁具、一の谷の川舟造船

○久賀町歴史民俗資料館

英 名 : Kuka-cho Historical Folk Material Hall
住 所 : 74223 大島郡久賀町大字久賀字西中津原
電 話 : 08207-2-1875
交 通 : 国鉄山陽本線大島駅より国鉄バス久賀駅下車徒歩5分
所 属 : 久賀市
沿 革 : 1974年(昭和49年)開館
開館時間 : 9時~16時30分(土曜日は12時まで)
休 館 日 : 日曜日、祝日、12月29日~1月4日
入 館 料 : 大人100円、小人50円
展 示 : 船大工用具

○橘町民俗資料館

住 所 : 7422805 大島郡橘町大字東安下庄701-1
電 話 : 08207-7-2265
交 通 : 山陽本線大島駅下車、大島バスセンターよりバス安下庄線「安高(あだか)」下車徒歩10分
所 属 : 橘町
開館時間 : 9時~16時
休 館 日 : 月~金(土、日のみ開館)
展 示 : 安下浦のイワシ網漁の網船模型

○東和町立陸奥記念館

英 名 : Mutsu Memorial Hall
住 所 : 74226 大島郡東和町大字伊保田2211-3
電 話 : 08207-5-0042
交 通 : 国鉄山陽本線大島駅より周防油宇行バス陸奥記念駅下車、岩国港より高速船伊保田港下車徒歩15分
所 属 : 東和町
沿 革 : 1974年(昭和49年)開館
開館時間 : 9時~16時30分
休 館 日 : 無休
入 館 料 : 高校生以上410円、小人200円
展 示 : 陸奥の艦首の一部、推進器、船首錨および錨鎖

○豊北町歴史民俗資料館(◎、●)

英 名 : Houhoku-cho Historical Folk Material Hall
住 所 : 75955 豊浦郡豊北町大字滝部3153-7
電 話 : 0837-82-1661
F A X : 0837-82-1661
交 通 : 国鉄山陰本線滝部駅下車徒歩10分
所 属 : 豊北町
沿 革 : 1980年(昭和55年)11月1日開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月29日～1月3日

入館料：大人100円、高校大学生80円、小中学生60円

展示：角島の伝馬船、廻船資料、漁具

○由宇町歴史民俗資料館

英名：Yuu-cho Folk Historical Museum

住所：74014 玖珂郡由宇町神東614-10

電話：0827-63-1515

F A X：0827-63-1515

交通：国鉄山陽本線由宇駅下車徒歩15分

所属：由宇町

沿革：1993年（平成5年）6月9日開館

開館時間：9時～16時30分（日曜日は11時45分まで）

休館日：月曜日（祝日のときは翌日）、祝日、12月29日～1月3日

入館料：大人100円、小中学生50円

展示：廻船業、造船業資料

<香川県>

○海の科学館

英名：Maritime Science Museum

住所：766 仲多度郡琴平町953

電話：0877-73-3748

F A X：0877-73-3116

交通：国鉄土讃線琴平駅下車徒歩15分

所属：財団

沿革：1966年（昭和41年）3月1日開館

開館時間：9時～17時

休館日：無休

入館料：大人400円、中高生300円、小人200円

展示：船舶模型、船用機器

○金刀比羅宮博物館

英名：Kotohira Shrine Museum

住所：766 仲多度郡琴平町892

電話：0877-75-2121

交通：土讃線琴平駅下車徒歩20分、または琴平電鉄琴電琴平駅下車徒歩15分

所属：財団

沿革：1905年（明治38年）開館

開館時間：8時～16時（4月～9月）、9時～16時（10月～3月）

入館料：大人200円、学生100円、小人50円

展 示：「金比羅丸」模型

○瀬戸内海歴史民俗資料館 (◎)

英 名：Seto Inland Sea Folk History Museum

住 所：761 高松市亀水町1412-2

電 話：0878-81-4707

F A X：0878-81-4784

交 通：国鉄高松駅より琴電バス王越行大崎下車徒歩25分

所 属：香川県

沿 革：1973年（昭和48年）11月3日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：月曜日（休日のときは翌日）、12月28日～1月4日

入 館 料：大人220円、高校生80円、小中学生60円

展 示：線図および船大工用具、木造船の造船現場、廻船模型

〈愛媛県〉

○大三島海事博物館 (◎)

英 名：Omishima Marine Science Museum

住 所：79413 越智郡大三島町大字宮浦3327

電 話：0897-82-0032

F A X：0897-82-0019

交 通：尾道、竹原、松山観光、今治、波方の各港より宮浦港下船徒歩15分

所 属：財団

沿 革：1971年（昭和46年）4月23日開館

開館時間：8時30分～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日：無休

入 館 料：大人800円、学生600円、小中学生300円（大山祇神社宝物館と共通）

展 示：葉山丸資料、軍船模型下図、艦船写真

○能島村上水軍資料館

英 名：Museum of Noshima Murakami Suigun

住 所：7942203 越智郡宮窪町大字宮窪2669中央公民館内

電 話：0897-86-3238

F A X：0897-86-3828

交 通：今治港より大島フェリー25分、下田水港着、バスにて25分、宮窪営業所下車徒歩3分

所 属：宮窪町

沿 革：1976年（昭和51年）3月開館

開館時間：8時30分～17時

休 館 日：土、日、祝日

入 館 料：大人100円、中学生以下50円

展 示：船具

〈徳島県〉

○徳島市立徳島城博物館

英 名 : Tokushima City Tokushima Castle Museum

住 所 : 770 徳島市徳島町城内1-8 徳島中央公園内

電 話 : 0886-56-2525

F A X : 0886-56-2466

交 通 : 国鉄高徳本線徳島駅下車徒歩10分

所 属 : 徳島市

沿 革 : 1992年10月1日開館

開館時間 : 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日 : 月曜日（休日のときは開館）、祝日の翌日（休日のときは開館）、12月28日～1月4日

入 館 料 : 大人300円、高校大学生200円、小中学生100円

展 示 : 鯨船「千山丸」資料、阿波水軍資料

〈高知県〉

○高知県立郷土文化会館（◎）

住 所 : 7800850 高知市丸の内1-1-20

電 話 : 0888-22-0231

交 通 : 高知駅より土佐電鉄公園通り下車徒歩5分

開館時間 : 9時～17時

休 館 日 : 月曜日、12月28日～1月4日

展 示 : ○土佐藩の御座船模型

○船磁石（土佐藩の船頭の久保氏が1774年（安永3年）にもとめたもの）

○鯨舟（郷土玩具）

（1987年5月26日現在）

4. 結 言

本報告では近畿、中国、四国地方における8施設についての現地調査と57施設についての文献調査結果を示した。今までの調査結果を県別にみると表1のようになる。この表によると当然のことであるが海に面していない県において船に関する資料があまりみられないことなどがわかる。また調査結果が著者の行動範囲と密接に関係しているため調査範囲に片寄りが見られることも明らかである。今後、少しずつではあるがこれらについてもさらに調査を増やして解明していきたい。

表1 海事関係博物館調査結果

県名	現地調査結果	文献調査結果
北海道	6	30
東北地方	6	41
青森県	2	12
岩手県	2	7
宮城県	0	5
秋田県	2	10
山形県	0	5
福島県	0	0
関東地方	38	54
茨城県	3	6
栃木県	1	2
群馬県	0	0
埼玉県	0	2
千葉県	12	16
東京都	15	17
神奈川県	7	11
中部地方	10	44
静岡県	4	9
愛知県	1	3
山梨県	0	0
長野県	1	2
岐阜県	0	2
新潟県	3	9
富山県	1	5
石川県	0	6
福井県	0	8
近畿地方	10	27
三重県	2	3
奈良県	0	0
和歌山県	0	2
滋賀県	0	2
京都府	0	5
大阪府	2	5
兵庫県	6	10
中国地方	4	23
鳥取県	0	1
島根県	0	1
岡山県	1	3
広島県	2	11
山口県	1	7
四国地方	3	7
香川県	1	3
愛媛県	1	2
徳島県	0	1
高知県	1	1

参考文献

- (1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その1）－西ドイツの博物館－、東京商船大学研究報告（人文科学）第40号、pp.83-99（1989年12月）
- (2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その2）－西ドイツ（続）・オランダ・ベルギー－、東京商船大学研究報告（人文科学）第41号、pp.89-114（1990年12月）
- (3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その3）－ノルウェー・スウェーデン・デンマーク－、東京商船大学研究報告（人文科学）第42号、pp.73-91（1991年12月）
- (4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その4）－イギリス・フランス・イタリア・スロベニア－、東京商船大学研究報告（人文科学）第43号、pp.87-106（1992年12月）
- (5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その5）－アメリカ－、東京商船大学研究報告（人文科学）第44号、pp.41-67（1993年12月）
- (6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その6）－中国－、東京商船大学研究報告（人文科学）第45号、pp.13-19（1995年3月）
- (7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その7）－オーストラリア・ニュージーランド－、東京商船大学研究報告（人文科学）第46号、pp.1-26（1996年2月）
- (8) 庄司邦昭：ヨーロッパ船の博物館ガイド、大空社（1998年6月）
- (9) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その1）－北海道－、東京商船大学研究報告（人文科学）第47号、pp.15-31（1997年2月）
- (10) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その2）－東北地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第48号、pp.41-60（1998年1月）
- (11) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その3）－関東地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第49号、pp.41-60（1999年1月）
- (12) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その4）－中部地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第50号、pp.75-102（1999年12月）
- (13) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ－考古・歴史・民俗－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (14) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅱ－教育委員会・埋文センター・研究会一覧－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (15) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド、美術出版社（1992年1月10日）
- (16) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館、富士書店（1976年7月）
- (17) 加藤有次監修：ユニーク博物館、毎日新聞社（1985年5月）
- (18) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧、第2巻、ぎょうせい（1995年6月）
- (19) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧、第3巻、ぎょうせい（1995年6月）